

QOL

No.32

QOL サポーター 新潟

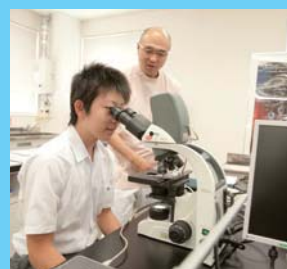
Quality Of Life



7月・8月の計4日間にわたり「夏のオープンキャンパス2013」が開催されました。県内外から約3,800名の方々にご来場いただき、大盛況で終わることができました。

INDEX

- インタビュー「万全の就職サポート体制」
- 新施設紹介
- 強化指定クラブ特集
- 基礎ゼミ 学生・教員交流会
- プロジェクト研究センター 紹介
- CAMPUS NEWS
- 第13回伍桃祭（大学祭）のご案内
- 大学院



万全の 就職サポート 体制

学生一人ひとりの夢を叶える、きめ細やかな就職支援体制を構築し、時代のニーズに応える、「優れたQOLサポーター」を輩出している新潟医療福祉大学。
高い就職実績は、就職に強い大学として、多くのメディアに掲載されるなど、高い注目を集めています。



新潟医療福祉大学
キャリア開発室長
中町 礼子

高い就職実績を誇る 就職サポート体制の秘訣は？

個別相談に始まり、就職ガイダンス、適性検査・面接試験対策、各種セミナーなど、私たちが行っている就職支援プログラムには特別なことはありません。ただ、学生一人ひとりを丁寧にフォローしていることが特徴と言えます。

保健・医療・福祉・スポーツ分野は人材ニーズが高いので楽に就職できると思われるかもしれませんが、3～4年次には、国家試験対策や卒業研究、臨床実習などがあるので就職活動に十分な時間を割けないなどのデメリットもあります。そこで本学ではキャリア開発室スタッフと教員から選出される就職センター運営委員で構成される就職センターを設置し、双方が協力し、学生個々の就職活動状況と国家試験対策、卒業研究の進捗状況を把握し、全学を上げた組織的な就職支援を実施しています。

今年度の 就職活動状況は？

平成25年度の就職活動はまさにこれからが正念場となります。一般企業や病院総合（事務）職を目指していた学生は春の大きな山場が過ぎ、ある者は満足のいく内定をいただき、ある者は今までの就職活動の反省を行いながらさらに納得のいく就職先を求めている活動となります。

また、医療・福祉系は実習を終えた学生が8月23日に本学で行われた医療福祉施設求人説明会を皮切りに、本格的な就職活動を開始します。これまでは、予想を上回る状況で就職活動を上手にスタートしたところです。

大学全体の就職内定率

(平成25年5月17日現在)

99.4%

第9期生
就職内定率

『サンデー毎日 2013.8.11号』
(毎日新聞社)
福祉系学部就職率ランキング

全国第1位を達成!

『就職に強い大学2013』
(読売新聞社)
最新保存版
543大学就職率ランキング

私立
大学 全国第2位!

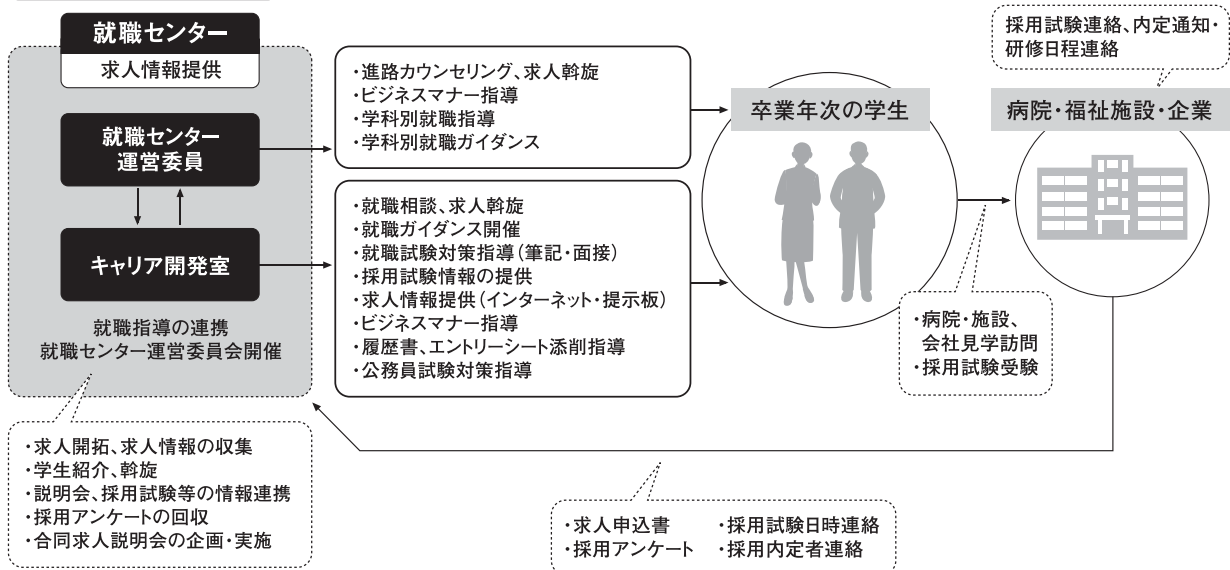
※就職者数500人以上の大学

今後の課題・展望。

今後、新学科の増設に伴い、学生数が増えると個別指導がますます難しくなってくると思います。学生が自分をよく理解し、その個性に合った職場を自身で探していかななくてはなりません。そのためにも充実した大学生活を送り、社会人基礎力という「前に踏み出す力」を特に身につけてほしいと思います。

「与えられた仕事はきちんとやる」のは当たり前、「自分で考え、進んで提案し、実行する」社会人となるために、大学4年間で「よく遊び、よく学べ」を実践してほしいと思います。それに必要となる支援を創造し、学生の夢の実現のサポートをしていきたいと考えています。

就職支援体制



新しい施設を紹介します!

840,000㎡の広大な敷地を持つ本学。最新鋭の設備や最先端の機器が備わり、QOLサポーターを目指す学生たちにとって、万全の環境が整っています。ますます充実する本学の最新施設をご紹介します。



屋外施設

平成25年6月完成!



●陸上競技グラウンド

ウレタン舗装を施した1周400m×8レーンの全天候型トラックを設置し、フィールドには幅跳や棒高跳などに対応した各種跳躍ピット、砲丸投・やり投などの各種投擲用の施設を備えています。



●テニスコート

全天候型コートとして、国内の多くのテニスコートで導入されている「砂入り人工芝」のテニスコートを4面備えています。



●硬式野球グラウンド

両翼101m、中堅120mの硬式野球グラウンドは、照明設備も設置し、夜間の練習にも対応しています。



第7研究・実習棟 平成25年3月完成! 健康スポーツ学科が主として使用する最新機器を設備した施設です。



●第2トレーニングセンター

各種トレーニング機器を備え、アスレティックトレーナー、健康運動指導士に求められる安全で効果的な運動指導などについて学べる実習施設です。



●多目的体操場(ダンススタジオ)

レッスンバーや音響・照明機器などを備えた多目的体操場です。学校体育でのダンス指導の場としても利用します。



●運動栄養実習室(キッチンスタジオ)

スポーツ栄養分野の実習施設として、アスリートの食事メニューや調理法などについて、実際に調理を行いながら実践的に学ぶことができます。

第8研究・実習棟 平成26年3月完成予定! 視機能科学科が主として使用する最新機器を設備した施設が完成予定です。



※施設画像はイメージです。実際とは異なる場合がございます。



●視機能科学実習室(仮称)

多くの眼科医療施設で採用されている検査・診療機器のうち、最新モデルの眼科機器を数十種備える予定です。



●眼科診療システム

最新の眼科診療システムを導入する予定です。また、高齢者や車いすの方にも対応したユニバーサルデザインを採用します。



●画像ファイリングシステム

電子化が進む眼科医療機関で使用される画像ファイリングシステムを導入する予定です。臨床現場に即した学内実習が可能です。

強化指定クラブが新潟医療福祉大学を面白くする

強化指定クラブ特集



国内外で活躍し、人々に夢を与えられるトップアスリートを育成。



水泳部

水泳部は、総合大学であるメリットを活かし、トレーナー（理学療法士）、栄養アドバイザー（管理栄養士・スポーツ栄養士）、ストレングスコーチなど、各分野の教員やスタッフによるサポートが充実しています。そのような環境の中、選手全員が常に高い意識を持って毎日厳しいトレーニングに励んでおり、創部8年目、日本選手権において入賞者2名を輩出しました。

日頃、水泳部では、部活動を社会の縮図と捉え、部員には「チーム目標達成のため、自分の役割を考えて行動する」「やるからには、とことん本気で取り組む」という2つのことを常に追求し、これからも日々精進していきたいと思えます。

日々の活動報告を以下でご紹介していますので、ぜひご覧ください。

●水泳部ホームページ <http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>

男子サッカー部

男子サッカー部は、地域スポーツと連携した新しいかたちのクラブ強化、選手・指導者育成に取り組んでいます。通常練習は、J1アルビレックス新潟専用グラウンドに隣接する新潟聖籠スポーツセンター・アルビレッジで行っています。チームのトレーニングテーマとして、「走る」こと「観る」ことに重点を置いたヴィジュアル・トレーニングを行い、練習後は栄養バランス抜群のアスリート定食を食べ、身体づくりにも力を入れています。強化試合では、J1サッカーチームであるアルビレックス新潟の胸を借り、プロ選手のプレーを肌で感じることができます。

また地域貢献活動として、新潟県ブラインドサッカー協会ご指導のもと、部員全員が「ブラインドサッカー」に取り組むなど、様々な活動に参加し、サッカーのみならず多くのことを学べる環境に恵まれています！

今年度も温かいご声援をよろしくお願いいたします。



女子サッカー部・アルビレックス新潟レディース所属

創部2年目の女子サッカー部は、全日本大学女子サッカー選手権大会、全日本女子サッカー選手権大会出場を目指します。また、今年度は「なでしこチャレンジリーグ」参入に挑戦します！

アルビレックス新潟レディース所属の女子部員は、「なでしこリーグ」でプレーしています。大学では学業に専念し、週末の公式試合では、地域の方々との試合を通じて「喜び」と「感動」を共有しています。卒業生や在学生には「なでしこJAPAN」や「ユニバーシアード日本女子代表」の一員として、世界を舞台に活躍している選手がいます！

温かいご声援をよろしくお願いいたします。



男子バスケット部

今年度は、全国大会経験者3名を含む6名の新入部員を迎え、総勢32名が所属しています。新たなスタートの年として、インカレ出場を最大の目標に掲げ、謙虚な気持ちを大切に、今まで以上に厳しい練習で個々のスキルアップやチーム力アップに取り組んでいます。また、小学生バスケットボール教室の実施、講習会などにも参加し、地域社会への貢献も行っています。

男子バスケットボール部は、家族・友人・学業、そしてバスケットボールを大切に、周りの人々への感謝の心を持ち続け、失敗しても勇気を出して「プラス思考」で新たな可能性にチャレンジする、人間性豊かな人づくりを目指します。

女子バスケット部

今年度、31名の部員が所属し、高校で全国大会上位入賞の指導実績のある大滝和雄監督のもと、8年連続インカレ出場と上位入賞を狙っています。

部員には高校時代、全国レベルで活躍した選手や一般入試で入学した人など様々で、「明るく! 楽しく! 元気に!」をモットーに、部員全員が共に切磋琢磨し、毎日活気のある活動を行っています。WJBL(バスケットボール女子日本リーグ機構)に参戦している新潟アルビレックスBBラビッツとの合同練習も実施し、トップレベルの選手のプレーを間近で感じ、頑張っています。部活動での強化はもちろんですが、豊かな人間性・社会性も身につけ、いち人間としての成長を目指しています。



陸上部

今年度は新入部員42名を迎え、現在約103名の部員が所属しています。6名のスタッフが短距離、中長距離、跳躍、投擲ブロックをそれぞれ担当し、きめ細やかな個々への指導を行っています。自己管理できる強い精神力と科学的根拠に基づくトレーニングを考える能力を身につけ、選手個々が自己記録を更新できるようにチーム作りを目指しています。

また、6月には第4種公認陸上競技場が完成し、日本のトップレベルの選手を招き竣工記録会を実施しました。

今年度の北信越インカレでは男女総合優勝(男子3連覇、女子2連覇)を達成しました。9月に行われる日本インカレには男女リレー4種目を含む21種目に出場します。また、7月の全日本大学駅伝北信越予選会では女子が2連覇を達成し、10月に仙台で行われる全日本大学女子駅伝に出場します。今後ともご支援よろしくお願いたします。

●陸上競技部ホームページ <http://www.nuhw-tfc.net>



女子バレー部

今年度より強化指定クラブとなり、現在11名の部員で活動しています。練習コートがある体育館は夏休み中に床の改修工事やカーテンの取付をしていただき、素晴らしい環境で練習させていただいています。

チーム理念は『自ら考え行動できる選手の育成』です。高校時代に全国大会を経験した選手も多く、北信越大学リーグ優勝そして全日本インカレ上位進出を目標に日々精進しています。

今年度前期では、春季北信越大学リーグ戦で2部全勝優勝し、1部との入れ替え戦も勝ち、無事に1部に昇格することができました。また、中部日本総合選手権大会(北信越東海地方)では3位になることができました。

今後もさらに精進し、誰からも応援していただけるようなチームを目指していきたいと思っています。日々の活動報告を以下で紹介していますのでぜひご覧ください。

●女子バレー部ホームページ <http://nuhw.blog-niigata.net/volleyball/>



ダンス部

立ち上げ1年目である今年度は現在12名が所属し、女子8名・男子4名で構成しています。本学ダンス部は「身体で表現する力で人を感動させ、ダンスを通して人と繋がる」ことを目指し、大会やコンクールへの挑戦だけでなく、ダンス振付指導や発表の依頼を受け、積極的に学外活動も行っています。

平成25年3月に完成した多目的体操場(ダンススタジオ)には、前面に広がるレッスンバー、足への衝撃に配慮した床と充実した音響・照明機器を完備しており、日々トレーニングと作品創りに取り組んでいます。

今年度は5月に、こけら落としとなるパフォーマンス発表会を終え、今後、3つのコンクール出場と4つの発表があります。8月には初の全国大会(神戸)創作コンクール部門に出場し、9月には少人数によるコンクール(富山)、12月にはソロでのコンクールへの出場を控えています。学内での披露発表会も定期的に予定しておりますので、ぜひ足をお運びください。



野球部

硬式野球部は、4月より一期生31名の部員でスタートしました。関甲新学生野球連盟に加盟し、9月からの秋季3部リーグ戦に参戦します。今季リーグ戦では2部昇格を目指し、最終目標は、全日本大学野球選手権大会、明治神宮大会の全国大会出場、日本一を掲げています。

また、各学科や付属病院としての機能を備える新潟リハビリテーション病院と連携し、野球を断念しなければならないような重大な障害予防や故障を繰り返さないための動作改善の研究など、総合大学の特色を活かした取り組みも行っていきたいと考えています。小学生から社会人までを繋げ、新潟の野球界のセンター的役割が担えるような活動を目指します。





01 理学療法学科
予選敗退でもチームワークはNo1!



02 作業療法学科
作業療法学科の紹介ポスター制作



03 言語聴覚学科
交流会集合写真!



04 義肢装具自立支援学科
食事会で楽しくコミュニケーション

基礎ゼミ

学生・教員交流会

基礎ゼミは1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7~8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。



05 臨床技術学科
アミューズメント施設でリフレッシュ!



06 健康栄養学科
施設訪問についての発表会



07 健康スポーツ学科
ソフトバレーボール白熱の決勝戦!



08 看護学科
看護師を目指すための学びを深める勉強会



09 社会福祉学科
空き缶リサイクルのボランティア体験



10 医療情報管理学科
新潟港周辺海浜の漂流物調査

01 充実した大学生活を送るための第一歩

理学療法学科 1年 高橋 奈々



私たち理学療法学科の基礎ゼミは、学科全体の活動として5月にスポーツ大会、7月にバーベキューを企画しました。

スポーツ大会では、大学に入学して出会って間もないゼミのメンバーや担当教員と優勝を目指して協力し合うことで、交流を深めることができました。

学科全体の活動以外にも、4~5つのゼミが合同で行う中ゼミ活動やディベートなど、自分たちで企画して様々なことに取り組みました。

私たちのゼミでは、それらの活動の一つとして、ゼミの先輩方とバーベキューをしました。この活動を通して同じ学科の先輩と、先輩後輩の垣根を越えた交流ができました。さらに、大学生活や一人暮らし、テスト対策などについての情報交換をして、先輩方から貴重な話を聞くこともできました。

私にとって基礎ゼミは、大学生活の不安を解消したり、自分に足りないものを見つけたり、コミュニケーション力を育む場となり、充実した大学生活を送るための第一歩となりました。

作業療法学科 1年 横山 つかさ

02 基礎ゼミ活動で得たこと



基礎ゼミ活動では作業療法学科の紹介ポスターを制作することになり、私が基礎ゼミのゼミ長になりました。リーダーシップをとることが苦手なため、初めはとても不安でした。慣れない作業に悪戦苦闘し、課外時間にも作業をすることもありました。しかし、初めの頃の不安はいつしか消え、上手くゼミをまとめようと気を張らず、自分らしく周りをサポートしていこうという風に思えるようになりました。今回のゼミ活動を通して、私は自分の視野を広げられたと感じました。

また、担当教員の今西先生は、大学4年間の過ごし方や作業療法士の仕事のことに加えて、人との接し方やメールのマナーなど、社会に出ていくうえで大切な基本を一から丁寧に教えてくださいました。今後、年齢を重ねるにつれて社会人としての基本を教わる機会は減っていくと思いますが、今回、ゼミ活動を通して先生に様々なことを教えていただけて本当に良かったです。また、教わるだけでなく、この4年間を通して実践し、信頼される社会人になりたいです。

03 大学生活の一步 ～基礎ゼミを通して～

言語聴覚学科 1年 荒尾 祐希



私たちの基礎ゼミでは、大学生活をより過ごしやすくするために話し合ったり、自分たちで課題を決めてプレゼンテーションしたりといろいろな活動をしています。課題について自分たちで調べ、プレゼンテーション資料を作ることは慣れない点が多く、また見て分かりやすい資料を作るという点においても戸惑うことや苦勞することもありました。けれども、新しく吸収できることも多く、これからの大学生活に活かせることを身につけることができました。

担当教員の山岸先生も優しくみんなが話しやすいような雰囲気を作ってくださっています。生活面はもちろん、初めて学ぶ教科など、不安なところも含め様々な質問をしたり、ゼミの中での情報交換をしたりと、とても良い雰囲気です。ゼミ活動を行うことができます。

また、5月下旬に行われた交流会では学科の各ゼミが集まり、ゼミ対抗のソフトバレー大会が開かれ、いつもとは違った楽しい雰囲気を味わうことができました。基礎ゼミを通して、安心して大学生活の一步を踏み出すことができました！

04 基礎ゼミ交流会に感謝！

義肢装具自立支援学科 1年 倉林 廉



義肢装具自立支援学科の基礎ゼミの中で行われるレクリエーションでは、食事会をすることが多くあります。どのゼミでも食事会では焼肉が人気で、私の所属ゼミでも1・2年生と先生で焼肉食べ放題に行きました。また、本学科では複数のゼミが合同で、野外バーベキューを行うこともあります。

このレクリエーションによって先輩方と仲良くなることができ、大学生活を過ごすうえでのアドバイスをいただきました。入学した当初は大学生活にいろいろと不安があったの

で、一人暮らしをするうえでのコツや注意点、1年次を取る講義のテスト対策などを教えてもらったり、質問をしたりする機会となり、とても助かりました。学科の先輩方と良い関係を築くことができた交流会に感謝しています。

来年以降は新1年生との交流会もあると思うので、その際にはいろいろとアドバイスできるように、これからの学生生活も頑張っていきたいと思います。

05 自主性の尊重



私たちのゼミでは、「自主性の尊重」をテーマに活動してきました。自分たちがしたいことを尊重し合いゼミの活動を決めました。様々な活動をしてきましたが、印象に残った3つのことについて紹介したい

と思います。

1つ目は、餃子作りをしたことです。先生を含めゼミ員全員で餃子を作りました。この活動で協調性を学び、ゼミの絆を深められたように思います。2つ目は「体を動かす」をテーマにアミューズメント施設に行ったことです。運動不足

を解消でき、さらに息抜きもできたことで日頃の勉強へのやる気もわいて良い活動になりました。3つ目は、基礎ゼミ活動の最後の記念として、他のゼミと合同で水族館に行ったことです。他のゼミと合同で行くことで楽しさも増し、交流の輪も広がり、充実した活動になりました。

基礎ゼミの活動を通して、自主性を持って取り組むこと、そしてそれぞれの個性を尊重することが大切だと学ぶことができました。

06 施設訪問を通して得たもの



健康栄養学科では、実際の管理栄養士の仕事内容を知ることを目的に、基礎ゼミで病院・小学校などの近隣施設を訪問しました。

私たちのゼミは松浜病院を訪問し、病院管理栄養士の仕事内容や私たちが疑問に思っていることなどについて伺ったり、調理場や食事を運ぶコンテナなどを見せていただいたりしました。また、患者様の咀嚼・嚥下の状態に応じた普通食、ソフト食、ゼリー食などの病院食を実際に試食させていただきました。ソフト食とゼリー

食は患者様一人ひとりに合わせて食べやすいように食材を細かくするなどの工夫をして作っていることが分かりました。

今回初めて病院に勤めている管理栄養士の方の話を直接聞くことができ、仕事場も見学することができて大変勉強になりました。今回の施設訪問は私にとって非常に有意義なものになりました。この経験を活かし、優れたQOLサポーターになれるようにこれからも勉学に励んでいきたいです。

07 ソフトバレーボール大会を終えて



基礎ゼミの学生・教員交流会では、ソフトバレーボール大会に出場し、他のゼミ生や先生と親睦を深めることができました。

事前にチームメイトと作戦を話し合い念入りな準備をすることで、試合では効果的に得点を重ねることに成功しました。得点が入る度にチームが盛り上がり、笑顔に溢れた楽しいひとときを過ごすことができました。私が所属するゼミの結果は惜しくも2回戦敗退でしたが、このソフトバレーボールを通して、ゼミ内の雰囲気も和

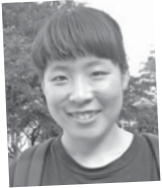
らぎ、打ち解けることができたと思います。

ソフトバレーボールを終えて、スポーツには言葉を使わなくとも深い絆で結ばれる一体感や、人の活力を生み出す力があることを実感しました。このような力を持つスポーツに生涯を通して関わっていきたくと改めて実感しました。

これから4年間、充実した大学生活を送り、優秀なQOLサポーターを目指していきたいです。

看護学科 1年 小嶋 渚

08 基礎ゼミでの学び



看護学科の基礎ゼミでは、ゼミごとにテーマを決めて学んでいます。私たちの基礎ゼミでは、「被災者に対する心のケア」を学ぶこととなりました。

私は東日本大震災で看護師の方が支援をしている姿をテレビを見て、災害看護について関心を持ち、震災が起きた時、心に傷を負った人たちに看護師として何ができるか興味を持っていました。

「被災者に対する心のケア」を学ぶ前に、まずはみんなでストレス障害や診断基準について基礎的な知識を学びました。そこ

から、災害時の被災者の心の状態はどうなっているのか、また被災者への接し方や、心のケアについて学びを深めていきました。学びを深めることで、看護師などの支援者も被災者と同じように心にストレスを抱えてしまうことが分かり、新たに支援者という立場に注目して心のケアについて学んでいきました。

これから先、いつ起こるかわからない災害に対し、看護師という立場として今回ゼミで学んだことは自分の力になると思います。

一人の支援者として、一人でも多くの被災者を支援できるようにさらに学びを深めていきたいと思います。

09 ボランティア体験を通して学んだこと

社会福祉学科 1年 小野島 愛夏



基礎ゼミの一環として、豊栄福祉交流センター「クローバー」の中の「ひしもの家」という施設でボランティア体験を行いました。利用者の方々は黙々と作業に取り組んでいましたが、休憩時には一転して

とても和やかな雰囲気でご過ごされていました。

この体験を通して、私は「障害者の就労支援施設におけるお金の流れはどうなっているのか」という疑問を持ち、ひしもの家で実施されている就労継続支援事業について調べ、国や地方自治体からの支援やお金の流れなど

について理解を深めることができました。この訪問をきっかけとして、関心を持った事柄についてゼミのメンバーと分担して調べ、いろいろなことを知ることができて良かったです。

また、施設内には誰でも食事ができる喫茶コーナーがあって、お昼にいただいたクローバー弁当が家庭的な味でとても美味しかったです。皆さんもぜひ食べに行ってみてください!

10 基礎ゼミの活動で得たもの

医療情報管理学科 1年 富樫 礼子



私たちの基礎ゼミでは、新潟港周辺海浜の漂流物に関する調査、市販ペットボトル茶に関する官能調査、ゼミのQOLに関する調査、の3つをテーマで活動をしました。

私はQOL調査の担当をしました。入学してから何度も耳にする機会のある言葉でしたが、QOLについての知識がほとんどなかったので不安もありました。しかし、アンケート調査を通して改めて気づくことも多く、QOLについての理解を深めることができたと思います。ゼミの活動はテーマを決めるところから学生主体で行い、み

んなで意見を出し合ったりアンケート調査をしたりと、毎回充実した時間を過ごすことができました。

また、交流会でゼミ対抗のバレーボールをしたり、5月にはゼミのメンバーでバーベキューをしたり、みんなとても仲が良く、楽しく活動しています。同じ学科ということで、学習面でも情報交換ができ、とてもいい刺激になっています。

ゼミを通して、自分の興味が広がっただけでなく、より多くの人との交流の機会を得ることができました。活動の中で学んだことを今後の大学生生活に活かしていきたいと思っています。

プロジェクト研究センター 紹介

保健医療福祉連携教育研究センター

センター長 / 義肢装具自立支援学科 教授 真柄 彰

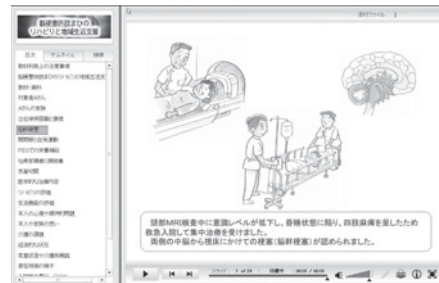
保健医療福祉関連養成大学で利用できる保健医療福祉連携教育の開発と普及を目的とします。

研究テーマ

連携教育のための仮想事例データベースの維持・発展。人材の育成・若手教員の育成と確保。モジュールの作成。ファミリーータガイド・学生ガイドの開発。ICTシステムの開発と普及。

活動内容・成果

本学の連携教育において、インターネットを使用した仮想事例の提示を開発し維持しています。5大学の連携により文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択されて開発した仮想事例モジュール教材データベースをウェブ上に構築し、教育に使用する事例提示を行っています。各種疾患・障害のシナリオに基づき、音声付きのイラストにより再生できます。現在登録されているのは、「高齢者の骨折予防・治療と生活支援」を始めとする32例です。「連携総合ゼミ」で実際に使用試験をして全国に向けて公開しています。



今後の展望

2014年に本学が主催する第7回日本保健医療福祉連携教育学会の開催準備が当面の目標です。

医療経済・QOL研究センター

センター長 / 作業療法学科 教授 能登 真一

日本でも医療に関する費用対効果指標の重要性が議論されるようになってきました。しかしながら、欧米をはじめすでにHTA (Health Technology Assessment)を導入している諸外国に比べて研究の基盤づくりが遅れています。その基盤づくりに貢献することが本センター設立の目的です。

研究テーマ

日本で医療経済研究を推進するために必要な費用対効果の知見と費用効果分析が必要となる健康関連QOL(特に効用値)に関するデータベースを構築すること。合わせて国内で実施される医療経済研究に積極的に参加すること。

活動内容

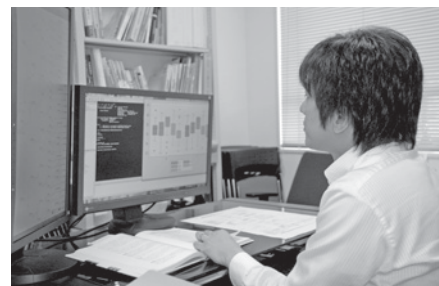
諸外国のデータベースの調査、データベース構築のための基礎データの収集、臨床研究への参加、国際学会での発表。

活動成果

英文論文 5編、和文論文 2編、国際学会発表 4編、国内学会発表 5編

今後の展望

日本で医療経済研究を発展させるためには研究者を増やすことも重要だと考えています。研究手法を広く社会に還元するために、アカデミアをはじめメーカーの担当者などを対象に講習会やセミナーを開講していきたいと考えています。



ロボットスーツ活用研究センター

センター長 / 義肢装具自立支援学科 教授 江原 義弘

ロボットスーツ活用研究センターでは、新潟リハビリテーション病院と本学のHALサポーターズサークルと連携してロボットスーツHAL®福祉用の活用推進を目的とします。

研究テーマ

ロボットスーツHAL®による身体に障害を持つ方々や筋肉の動きが弱った方々のための、立ち座りや歩行などの日常動作のサポート。

人間の身体は、脳から出た指令が脊髄と末梢神経を介して筋骨格系へと伝わることで動きますが、このような中枢神経系(脳や脊髄)から運動器官への動きが少しでも残っている方の場合には、あらかじめ皮膚に張ったセンサーで、この信号(生体電位信号)を感知して、それをパワーユニット(モーター)に伝えます。従って本人の意思に従ってロボットスーツを関節と一体的に動かすことができます。麻痺の程度が強い方にはあらかじめ設定したパターンで動作が遂行されるモードもあります。

活動内容

- *ロボットスーツを知るための勉強会
- *学生教育のためのテキストの作成
- *ロボットスーツ運用のためのライセンス取得
- *ロボットスーツ装着具の試作開発
- *ロボットスーツの臨床応用研究

活動成果

本学の学生たちはHAL®福祉用の運用のためのライセンスを取得し、新潟リハビリテーション病院のスタッフがHALを活用することをサポートしています。

今後の展望

ロボットスーツには身体に障害を持つ方が装着するタイプのものだけでなく、介助者などが装着して身体機能をサポートし、介助する方の腰にかかる負担を軽減するという腰補助タイプも開発されています。平成27年度には介助ロボットを保険適用するという政府方針が決定されています。今後は、ロボットスーツが福祉施設や病院で積極的に活用されるようになるでしょう。本学ではこの時代の流れに則して、ロボットスーツ活用をサポートできる人材を育成していきます。



本学最大のイベント! 「夏のオープンキャンパス2013」が行われました!

NEWS 01

7月13日(土)、8月3日(土)4日(日)、8月31日(土)、「夏のオープンキャンパス2013」が開催されました。

全11学科による「学科説明会」をはじめ、フリープログラムでは、本学の特色や入試について説明する「大学概要・入試概要説明会」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」、そして各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に、夏のオープンキャンパスの醍醐味でもある70種類以上にも及ぶ体験プログラムでは、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある複数の学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができました。

また、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子やサークル活

動についてなど、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に知っていただくことができました。

本年度の夏のオープンキャンパスは、これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施しますので、機会があればぜひ一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。



【オープンキャンパス日程】

10/13① 11/2② 12/7③

玉川大学と「小学校教員養成特別プログラム」協定締結

NEWS 02

7月30日(火)、新潟医療福祉大学(学長:山本正治)と玉川大学(学長:小原芳明)は、「小学校教員養成特別プログラム」に関する協定を締結しました。

本プログラムは、小学校教諭養成のため、本学学生が3年次から玉川大学通信教育部の科目等履修生として2年間在籍し必要な単位を修得するもので、これにより本学卒業時に小学校教諭二種免許状の取得が可能となります。

本プログラムを受講するには、平成26年4月以降に健康スポーツ学科に入学し、中学校・高等学校教諭一種免許(保健体育)課程を履修の

うえ、3年次から「スポーツ教育コース」を選択し、且つ、本学の推薦する基準(学業成績・面接)を満たすことが要件となります。

子どもの体力・運動能力の低下や、教育現場でのいじめやスポーツ指導での体罰などが社会問題化するなか、健康スポーツ学科スポーツ教育コースでは、人間力豊かなスポーツ指導のできる小学校教諭の養成を目指します。



第13回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

NEWS 03

今年度の学術集会は、大会テーマを「現場から求められている医療・福祉系大学の課題」とし、研究発表や専門セッションなどのプログ

ラムを用意しています。参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

日 時:平成25年10月19日(土)9:30~

会 場:新潟医療福祉大学 大講堂

大会長:追手 魏(医療技術学部 臨床技術学科 学科長)

●特別講演「医療・福祉系大学に何を期待するのか?」

司 会:追手 魏

講 師:内山 聖(魚沼基幹病院 院長、前新潟大学医歯学総合病院 院長)

●シンポジウム

「現場から求められている医療・福祉系大学の課題」

〔座 長〕

大西 秀明(医療技術学部 理学療法学科 学科長)

長濱 大輔(医療技術学部 臨床技術学科 教授)

平成26年度 入学選考試験のご案内

NEWS 04

本学では、個性を活かすことのできる様々な試験区分を設けています。それぞれの特色を理解し、自分にあった試験区分を選択し、受験に臨んでください。

保健・医療・福祉・スポーツのスペシャリストを目指す、意欲溢れる皆さんからの出願をお待ちしています。

■募集学科・募集人員(1年次)

理学療法学科 80名
作業療法学科 40名
言語聴覚学科 40名
義肢装具自立支援学科 40名
臨床技術学科 80名
視機能科学科 50名
健康栄養学科 40名
健康スポーツ学科 160名
看護学科 80名
社会福祉学科 120名
医療情報管理学科 80名

■入学試験日程

※出願前にエントリーが必要となります。詳しくは本学HPまたは学生募集要項をご参照ください。

試験区分	学 科	出願期間	試験日
AO入試	視機能科学科 以外	受付終了	第1次 9/7(土) 第2次 10/5(土)
	視機能科学科	9/13(金)~9/26(木)	10/5(土)
推薦入試	公募推薦(前期)	全学科	10/25(金)~11/4(月)
	公募推薦(後期)	義肢装具自立支援学科 視機能科学科 社会福祉学科 医療情報管理学科	12/2(月)~12/10(火)
	指定校推薦	全学科	10/25(金)~11/4(月)
	スポーツ推薦	健康スポーツ学科	前期 10/25(金)~11/4(月) 後期 12/2(月)~12/10(火)
	特別推薦	理学療法学科 医療情報管理学科	10/25(金)~11/4(月)
社会人等特別入試	全学科	10/25(金)~11/4(月)	11/16(土)
センター利用入試(前期)	全学科	1/8(水)~1/27(月)	本学独自の個別学力 検査等は課さない
センター利用入試(後期)	理学療法学科 臨床技術学科 視機能科学科 健康スポーツ学科 看護学科 医療情報管理学科	2/12(水)~2/21(金)	センター試験実施期日 1/18(土) 1/19(日)
一般入試(前期)	全学科	1/8(水)~1/22(水)	2/5(水)
一般入試(後期)	全学科	2/12(水)~2/21(金)	3/5(水)
3年次編入試験	①健康スポーツ学科※ ②看護学科 ③医療情報管理学科※	②受付終了 ①③9/19(木)~9/26(木)	② 9/7(土) ①③ 10/5(土)

学友会

第13回 伍桃祭(大学祭)案内

今年の
テーマ

「Hands in Hands」

～つながる想い～

第13回目となる今年のテーマは「Hands in Hands ～つながる想い～」にしました。「Hands in Hands」とは「手と手をとって、手を携えて」という意味があります。伍桃祭は、私たち学友会をはじめ、在学生・教職員・企業や地域の方々と一緒に創っています。多くの出会いがきっかけとなり、一人ひとりの想いと共に手と手をとって、伍桃祭を成功させようという願いがこのテーマには込められています。

今年の伍桃祭も、メインステージでは学祭を盛り上げる定番イベントのMr.&Ms.コンテストや、部活・サークルによる迫力のあるパフォーマンスを行います。新イベントとして、模擬店を盛り上げるための出店グランプリやチーム対抗クイズバトルを企画しました。また、毎年好評のお化け屋敷や、子どもから大人まで楽しめるスタンプラリーなどたくさんのイベントを開催します。

その他、同窓会主催の「新潟医療福祉大学同窓会 ホームcomingデー」では、卒業生による専門職実践講演会なども開催されます。現場の生の声が聴ける機会であり、私自身も楽しみにしています。

10月13日・14日、新潟医療福祉大学にて、たくさんの方のお越しをお待ちしております。

第13回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長 小林 弘樹

イベント案内

- 「SKY-HI」によるライブ
- 部活・サークルによる発表
- 模擬店
- Mr.&Ms.コンテスト
- チーム対抗クイズバトル
- 出店グランプリ
- 子ども向けアトラクション

このほかにも交流イベントが満載です。ぜひお越しください。



大学祭ホームページ案内

<https://sites.google.com/a/nuhw.ac.jp/gotousai2013/>



大学院

各種イベントのご案内

大学院では、伍桃祭と同日に開催する「大学院オープンキャンパス」や、「公開セミナー」などのイベントを企画しております。本学大学院に直接触れることができる機会ですので、ぜひご参加ください。多くの方からのご参加をお待ちしております。

※いずれのイベントも詳細情報については大学院ホームページ(<http://www.nuhw.ac.jp/grad/>)でご案内しています。

また、ご不明点は大学院入試事務室までお気軽にお問い合わせください。(E-mail : grnyuusi@nuhw.ac.jp)

大学院オープンキャンパス	10/13(日) 10:00～ ■申込受付/10月7日(月)まで(定員あり)	ダイジェスト版体験講義 ＜保健・医療・福祉連携教育実践法＞
---------------------	--	---

この授業では、保健・医療・福祉専門職の現場で必要とされる連携・協働に関する知識・技術について、講義だけでなく受講者の積極的な参加を通して身につけることを目標としています。当日は模擬ディベートに参加し、大学院の授業の雰囲気を感じることができます。

「研究方法論」に関する公開セミナー	11/2(土) 10:00～ ■申込受付/10月28日(月)まで(定員あり)	文献検索セミナー(基礎編)	12/7(土) 10:00～ ■12月4日(水)まで(定員あり)
--------------------------	--	----------------------	--

臨床現場における日々の業務の中から見えてくる課題や問題意識を、どのようにして研究デザインに落とし込み、得られた結果を課題の解決に役立てていくことができるかという点を中心に紹介します。

専門職のための文献検索方法について、本学図書館司書が分かりやすくレクチャーします。終了後は大学院説明会を開催。希望される方は担当教員との個別相談もできます。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
 TEL 025-257-4455(代) FAX 025-257-4456
 URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
 携帯サイト <http://www.nuhw.ac.jp/m/>
 【入試事務室】TEL 025-257-4459
 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっていきます。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

